



東中学校通信

学校生活の三本柱

- ・あいさつ
- ・5分前行動
- ・環境美化



令和元年 11月27日発行
No. 15

富岡市立東中学校

TEL 0274-62-3511

Email higashi-jhs@tomioka.ed.jp

文責 校長 土屋 勇



英語授業の充実のために ～富岡市教育研究所研究授業～

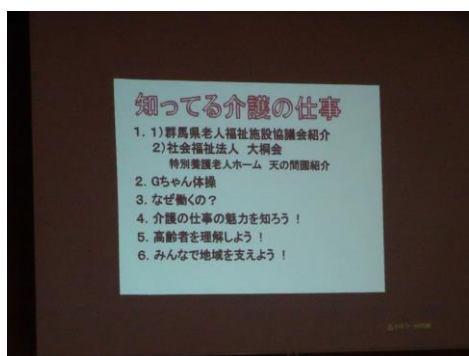
11月14日(木)、富岡市教育研究所の研究員である諏訪教諭による研究授業が行われました。英語の教員である諏訪教諭は、今年度1年生の授業の中で毎時間行う話す活動に焦点を当て、どうすれば英語を使ったより自然なやり取りができるか、相手の言葉に対してどのように受け答えができるか、どうすれば会話が発展していくか、などについて研究しています。当然のことながら要所要所で決められた言い方や表現があります。新学習指導要領で求めているのは、それらを「即興的」に使えるようにすることです。更にその一連の会話の流れが、無理なく「自然」でなければなりません。

習ったからすぐできるというものでもありません。時間が経てば当然忘れもします。大切なことは、短時間でよいので繰り返し使い続けるといことです。この実践を続けることで、来年、再来年の生徒の英語による会話力の向上を目指します。

当日の諏訪教諭の授業の中では、生徒たちはとても楽しそうに活動を行っていました。なかなか完璧な会話とまで届きませんが、とても意欲的に、ニコニコしながら英語の会話を楽しんでいる様子が

印象的でした。

年度途中からでしたが、本校の2階には「英語ルーム」があります。元々視聴覚室だったところですが、提示機器や音声機器が充実していて、英語の授業で活用しています。今のところ1年生の英語科を中心に活用していますが、今後他学年、他教科でも活用できるとよいと思っています。



「介護の仕事」って知ってる? ～1年介護学習～

11月21日(木)、1年生が総合的な学習の時間の中で介護について学びました。講師に富岡市上高瀬の特別養護老人ホーム「天の間園」の職員の方々に来ていただきました。内容は、「介護とは」と題する講話を聞いたり、車イスの試乗やそれを押して移動する体験、体に様々な装着物を付け、日常の動作に負荷をかけることでお年寄りの動きを体験的に理解するなどの場面もありました。

生徒たちは学級別に分かれ、時間内で交代しながら率先して体験していました。ある生徒は、最も不自由な部分はどこかという問いに対して、「目です」と答えていました。その生徒は、体に多くの装着物を付けた上に視界が狭くなっているメガネもかけていました。やはり狭い範囲しか見えず、足下が見えない状況からくる不安はかなりのものと思われます。この経験を生かして、お年寄りに対する様々な配慮を自然なかたちでできるとよいと思います。





火災対応の避難訓練実施！

11月19日（火）の午後、富岡消防署員8名に来ていただき、火災発生時の避難訓練を行いました。消防車2台と救急車1台に見守られる中、緊張感のある避難訓練ができました。年に一度作動するかどうかの点検も兼ねて防火扉も一斉に閉めます。まず、第一発見者（職員）が大きな声で火が出ていることを他の職員に知らせ、消防署への通報、校内放送による緊急放送と避難指示、職員が手分けして生徒の安全確認と避難誘導を行います。

訓練の一部始終を署員の方々に見ていただき、終了後に具体的に指導をいただきました。その中で、我々教員側が大丈夫と思

ったことや何も考えずに行っていた行動等に対して、厳しく指摘されたこともありました。例えば、各教室のカーテンは全てまとめて縛る、教室のドアは全て閉める、逃げ遅れの生徒がいらないか全ての教室やトイレを確認する等々。避難訓練は我々職員による避難誘導訓練です。毎年実施していますが、なかなか完璧にはできていません。訓練はやり過ぎることはありません。我々職員が基本的な知識とマニュアルをしっかりと身につけるとともに、実際の場面ではその状況に応じて臨機応変に動く力も要求されます。一つ一つの反省事項を全職員で共有して、いつ起きるか分からない災害に備えていきたいと思います。

今できることは何かを考える ～2年未来の授業～

11月15日（金）、2年生の総合的な学習の時間で、今の自分を見つめ直し、大切にしたいことを言葉にし、それを周囲の人に自分なりに表現することをねらいとした「未来の授業」を行いました。本校ではこの活動を数年前から続けており、特定非営利活動法人DNAの主催で行っています。DNAは、専属のコーディネーターが中心となり、県内の大学生や既に就職している若者が所属していて、県内の多くの中学校や高等学校で活動しています。

当日は若者が30名程来校し、体育館で2年生と様々な活動を行いました。最初は緊張感もありましたが、グループに分かれ、大学生たちの巧みなリードですぐに打ち解け、生徒たちも穏やかな表情を見せながら話し合いを進めていました。この活動は、2月に行われる立志式を意識したもので、自分たちより少し先輩のこれまでの生き方や心に残っていること、失敗談等を聞きながら、生徒たちは自分自身を深く見つめています。将来につながっていくことを期待しています。



3年生、童心に返る ～保育実習ふれあい体験～

11月に入り、3年生の家庭科で近くのひばりこども園にご協力をいただき、恒例の保育実習ふれあい体験を行いました。この日のために、園児が喜ぶおもちゃやゲームについて2学期早々から授業の中で考えを考えを重ね、様々な試行錯誤の末、ようやく作り上げ、園児と一緒に遊んできました。園児たちはお兄さんやお姉さんが来るのをとても楽しみにしていて、人見知りなどせず最初から喜々として一緒に楽しんでいるように見えました。何よりも本校の3年生たちがとても楽しんでいる様子が目立ち、暫し童心に返っていました。普段なかなか見せない表情を出しながら、何とか楽しませてあげようと必死になって積極的にリードしている様子が印象的でした。こども園の皆様には、わざわざ時間を割いていただき、大変ありがとうございました。